

令和 8 年 10 月 22 日

関係各位

鎌倉市医師会 会長 山口 泰
鎌倉市在宅医療・介護連携相談センター
センター長 宮下 明

最期まで口から食べる幸せのために多職種ができること
プロジェクトリーダー 岩武 博也

最期まで口から食べる幸せのために多職種ができることプロジェクト 第 2 回事例検討会開催について

仲秋の候、みなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度当会では、症例を手掛かりに、それぞれの職種なら、「ここを見る」「こんな支援ができる」という視点を持ち寄っていただき、意見交換をしながら、それぞれが何ができるか多職種の皆様と考える会を開催いたしますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お申込みは、下記 QR コードまたは <https://qr.paps.jp/Y73K5> より

10/22(木)～11/10 (火) までにお申込みください。



問い合わせ先：
鎌倉市在宅医療・介護連携相談センター
電話：0467-81-3597（平日 9：00-17：00）
FAX：0467-81-3695

主催：鎌倉市医師会

最期まで口から食べる幸せのために多職種ができることプロジェクト

最期まで口から食べる幸せのために
多職種ができることプロジェクト



第2回事例検討会 開催のお知らせ



「最近、食べなくなった」…その原因は嚥下障害でしょうか？

82歳、一人暮らしの女性。以前は料理が好きで、友人との食事を楽しみにしていました。ところが最近、「食べるのが面倒」「硬いものは疲れる」と話すようになり、3か月で5kgの体重減少。食事にも40分以上かかり、ときどきむせるようになりました。娘さんは「肺炎が心配なので、柔らかいものだけにした方がよいのでは」と心配しています。

さて、皆さんなら、まず何を考えますか？

嚥下機能でしょうか。歯や義歯、口腔内の状態でしょうか。栄養、筋力や活動量、食べる姿勢、薬の影響、認知機能、生活環境、そして本人の「何を食べたいか」でしょうか。

「食べられなくなった」という一つの現象も、職種によって見える景色は違います。だからこそ、多職種で考える意味があります。

今回の「最期まで口から食べる幸せのために多職種ができること」症例検討会では、この仮想症例を手がかりに、少しずつ明らかになる情報をもとに皆さんで考えます。専門的な正解を当てる会ではありません。「私の職種なら、ここを見る」「こんな支援ができる」という視点を持ち寄ってください。

そして最後に、彼女が本当に望んでいることが明らかになります。

この方がもう一度『食べる幸せ』を取り戻すために、あなたの職種には何ができるでしょうか。ぜひ、あなたの職種の「目」を持ってご参加ください。

日時

2026年 11月20日 金

19:15 ～ 21:00

(受付開始 19:00～)

会場

鎌倉芸術館 第3集会室

〒247-0056 鎌倉市大船6-1-2

開催方法

対面開催

対象

医療介護従事者

定員

80名

申込期間

10月22日(木) ～ 11月10日(火)

お申し込みは、右記QRコード または

<https://qr.paps.jp/Y73K5> よりお申し込みください。



問い合わせ

鎌倉市在宅医療・介護連携相談センター

TEL0467-81-3597 (平日9:00～17:00迄)